

## 郵便局での思い出 持田 誠



もちだ・まこと

横浜市出身。酪農学園大卒、北大大学院農学研究科博士課程修了。北大出版会、北大総合博物館、北海道鉄道文化保存会、帯広百年記念館を経て2015年から現職。専門は植物学、博物館学。50歳。

(浦幌町立博物館学芸員)

この間に大きく変わったのは職員構成で、国営時代の特殊郵便課はアルバイトが2人だけだったが、民営化後の普通郵便課はアルバイトばかりになっていた。職場の空気は国営のころのほうが和やかで、民営化後はすさんでいた。非正規雇用依存の社会は、職場の空気も変えてしまうのだなと思った。

普通郵便課で深夜の仕分け作業に追われていたころは、民営化していた。道南方面への郵便物はまだ、手で仕分けしていて、細かな地名がわからず苦労したが、徐々に体が地理を覚えていくのが楽しかった。

集荷センター勤務のころは、郵政公社になっていた。指導役の局長さんが偶然にも、前職の自衛隊時代に大学の守衛さんと同期で「おまえの話は聞いている。しっかり鍛えてやる」と、冬道運転から荷揚げのことまで丁寧に、ときに厳しく指導していただいた。

厚紙の標札が現役で、郵袋のたたみ方から立ち姿勢、標札の抜き取り、残留郵便物の確認方法まで、みっちり教え込まれた。

元日にたくさん年賀状が届くと、札幌中央郵便局でのアルバイトを思い出す。学生時代に1993年から10年間、断続的だったが、書留や速達を担う特殊郵便課、広域集荷センター、第2普通郵便課と、郵便局の内側でいろいろなことを学ばせてもらった。

ちょうど郵政民営化の前後で、特殊郵便課

にいたころはまだ国営だった。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に

残った。大きな郵袋に